

項目	観点	新しい 書写(2・東書)	小学 書写(17・教出)	書写(38・光村)
		1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	各教科との学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することができるようにするために、どのように配慮がされているか。	○「世界に広げよう」や「学びに生かそう」において、リーフレットやポスターの書き方など、国語や他教科と連動させた言語活動を取り上げ、生活に活用できる書写の能力を身に付けるための配慮が見られる。 ○巻末に、その学年で学習するすべての漢字と、全学年で学習するすべての漢字、ひらがな、かたかな、ローマ字の表記がある。すべてのかたかなに書き順、ひらがなには、その成り立ちも示してある。 ○日常生活の中では、横書きが多い現状に考慮し、1年では横書きの単元を設けている。2年以上では、他教科の学習や生活の中で使う例として、横書きの教材も取り入れている。
2 内容の程度及び取り扱いについて	児童に用紙の規格、書式、筆記具について関心をもち、主体的な学習を促すために、どのような工夫が見られるか。	○3年生では、巻頭に毛筆で書いたさまざまな線が掲載され、穂先に弾力があり、筆圧によって太さが違う線になることが視覚的に分かりやすくなっている。 ○単元の構成として、①硬筆で「書写のかぎ」(文字を整えて書くための知識・技能)を発見し課題を共有する②毛筆で大きく書くことで確認する③硬筆で別な文字を書くことで定着を図る④振り返るという展開で、毛筆を使用する学習が硬筆での書く力の基礎となるように構成されている。 ○「生活に広げよう」などにおいて、絵日記や生活作文など、国語と関連させた言語活動を取り上げ、生活に活用できる書写力を育成できるように配慮されている。	○3年生では、横画で学習する始筆、送筆、終筆の説明の写真と図が分かりやすく示されている。穂先の向きと穂先の通るところが視覚的に分かりやすい。 ○自由な運筆線を書く活動を行うことで文字を書く前のウォーミングアップを行えるように配慮されている。 ○作業療法の視点から、運動面に着目し、学習の基礎となる良い姿勢・良い鉛筆の持ち方を着目、習慣化できるような教材が設定されている。 ○鉛筆の持ち方の合言葉があり、「ぱちぱち」「ころころ」とウォーミングアップを行うことで、余分な力を入れずに、親指と人さし指でつまめるように配慮されている。	○3年生では、巻頭に「毛筆スタートブック」のページがあり、用具の準備から、片付けまでの流れがまとめて掲載されている。 ○教科書のサイズが5mm大きくなり、128%に拡大すると、半紙と同じ大きさになり、文字を書くのが苦手な子への配慮が見られる。 ○1年生では、巻頭に「しよしゃスタートブック」があり、色々な文字の使われ方を見たり、鉛筆の持ち方をイラストと比較したりすることができる。 ○全学年に新教材「ことば」が設けられ、日常の言葉や物語、ことわざ、俳句、詩などを書いて味わうことができる。
3 内容の配列・分量	教材の配列や分量には、どのような特色があるか。	○単元ごとに「書写のかぎ」を置き、単元名にも学習事項を端的に示すことで、学習のねらいを明確化・焦点化している。 ○1年生の教科書では、書写体操から、文字を書く姿勢までが分かりやすく図で示されている。 ○毛筆単元の始めに、硬筆で「書写のかぎ」について確認することができ、目標がより明確になる。 ○巻末には、筆職人のインタビューが掲載されており、筆に対する興味・関心が高まる内容が掲載されている。 ○色覚特性がある児童のために、専門家による検証を受けており、誰もがみやすい紙面となっている。 ○学習に集中できるように、学習過程の示し方がシンプルである。	○硬筆・毛筆学習を生かした教科等横断的な学習「レッツ・トライ」を効果的に設定している特色がある。 ○「はってん」を設けることで、先の学年で学習することの見通しがもてるようにしている。6学年では、行書を紹介することで、中学校で学習する内容への興味・関心が高まるように工夫されている。 ○巻末には、筆先に朱色の墨液をつけて書くと、穂先の通り道が分かることが示されており、児童が振り返りに役立てられる手だてが掲載されている。 ○見開きを基本とした見やすく使いやすいレイアウトとなっている。毛筆基本紙面は、右側の紙面で文字をよく見ながら、左側の紙面で学習ステップを追いながらポイントを確かめられる構成となっている。	○1年生の教科書では、姿勢や持ち方の前に、書写体操を入れたところに特色がある。 ○6年生の教科書では、書写ブックを付けて、1年生から6年生までに学習したことを、日常生活に結び付けて振り返る工夫が見られる。 ○巻末には、筆の洗い方が掲載されており、道具を大切に使うことについての手だてとなる。また、保護者に向けて、書写の学習の意義も示されている。 ○文字や図表などに、複数の色を用いる場合には、色覚の多様性の配慮として、全ての児童が明確に識別できる色の組み合わせを使用している。
4 表記・体裁	用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	○1年生の教科書では、とめ・はね・はらいの箇所特定のキャラクターを用い、繰り返し掲載することで、視覚的にも分かりやすくなっている。 ○QRコードが掲載されており、書き方の動画が見られる。最初から最後までノンストップでの動画になっているため、どこで筆を直したり、墨をつけたりするかイメージがしやすい。また、最後に筆の動きが出てくるため、書き方のイメージがより鮮明にできる。 ○鉛筆の持ち方について、両方の手のパターンが写真で示されており、左利きへの配慮がされている。とめ、はね、はらいの特徴をユーモアのあるイラストも交えてまとめが視覚的に示す工夫が見られる。	○1年生の教科書では、字を書く姿勢とよい姿勢の合言葉が簡潔に分かりやすく掲載されている。写真も大きくて、1年生には見やすい。 ○QRコードが掲載されており、書き方の動画が見られる。上から撮影されているため、見やすい。最初から最後までノンストップで作品を書き上げる形式になっている。 ○「リンゴマーク」でめあてとふりかえりを明示し、育成を目指す資質能力が児童にも分かりやすい工夫が見られる。文字の書き始めの場所を判断しやすい配色にする工夫が見られる。 ○人権に関する「言葉」を書くことで意識が高まる教材を、各学年で掲載している。イラストや図版は、専門家による校閲を行っている。	○1年生の教科書では、とめ・はね・はらいの箇所特定のキャラクターを用い、繰り返し掲載することで、視覚的にも分かりやすくなっている。 ○QRコードが掲載されており、書き方の動画が見られる。動画の途中で、ポイントが提示されたり、ねらいとなる部分が二回出されることがある。 ○「とまってぴよん」など、文字の整え方のポイントを、イラスト、写真、解説文を用いて示し、手本の近くにレイアウトされている。色覚等の特性を踏まえ、判断しやすい配色とレイアウトに工夫が見られる。